

こども・若者からの意見聴取結果について

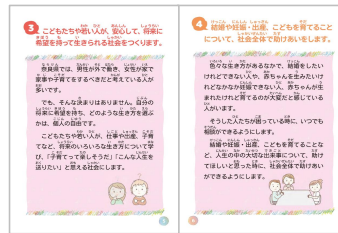
概要

「奈良県こどもまんなか未来戦略」の策定に向けて、すでに実施したこども・若者の意見聴取の結果については以下のとおり。

① 学校等を訪問しての対話を通じた意見聴取

- 実施時期：令和6年1月～3月
- 訪問先と人数（合計12施設283人）
 - 大学：2校（1回生～4回生 25人）
 - 高等学校：4校（1年生・2年生 47人）
 - 中学校：2校（1年生～3年生 19人）
 - 小学校：2校（5年生・6年生 135人）
 - 児童養護施設：1施設（4年生～高校3年生10人）
 - 休日学校：1施設（小学1年生～5年生 47人）

●使用したパンフレット



●方法

- 県職員が「未来戦略中間整理のやさしい版パンフレット」を用いて説明。その後、4名程度のグループに分かれて自由に意見を出して話し合ってもらった。
- 話し合いの後、グループで出した意見を発表してもらったり、出た意見について県職員から質問をして、どうしてそう思ったのかや、その意見に対して他のグループの人もそう思っているのか、などを聴いた。

●意見聴取の様子



② Webによる意見募集

- Webによる意見募集
 - 募集期間：令和6年2月5日～3月15日
 - 回答件数：114件

●方法

- 県ホームページに「未来戦略中間整理のやさしい版パンフレット」及び「未来戦略の骨子案」を掲載し、それらに対する意見をいただいた。

施策①：こども・若者の視点に立った施策の立案と推進

みなさんの意見

こども・若者からの意見聴取

- もっと意見を聴く場を作るべき、若者の意見を入れて（大学生）
- いじめアンケートのように、定期的に若い人から意見をもたえられるようなアンケートを行う（高校生）
- 子どもや若い人の意見を聞くために意見箱のようなものを県庁のホームページに載せる（高校生）
- Web上に意見ボックスを設置（高校生）
- ポストのような感じで意見を出せる箱がほしい（小学生）
- 自分の意見をきいてもらいたい（小学生）
- 物事の申し込みを電子機器でできるようにする（小学生）

こども・若者への情報提供

- やりたいことの前にどんなことが自分にとって良いかの知識は子どもには少ないだろうから、様々な選択肢を子どもに対して見せてほしい（高校生）
- 実際に行われることなどは、もっとたくさんの方が知れるようにしてほしい（高校生）
- 低学年向けには、動画を使ってほしい（小学生）

未来戦略に反映した内容

- 「意見を表明しやすい環境づくりを様々な手法で実施すること」を記載しました（p.46）
- 「公募により『奈良県こども・子育て支援推進会議』のこども・若者委員を選任すること」を記載しました（p.46）
- 「メール等により県の政策に意見を述べるができる『奈良県こどもまんなかクラブ』を運営し、積極的に活用すること」を記載しました（p.47）

- 「こども・若者施策について、こども・若者が理解できるように、わかりやすく伝えるための手法や素材を工夫し、こども・若者施策に関する情報提供や啓発を行うこと」を記載しました（p.46）
- 「こどもの教育、養育の場において、こどもが自らの権利について学び、自らを守る方法や、困難を抱える時に助けを求め、回復する方法を学べるよう、こどもの権利に関する理解促進や人権教育を推進すること」を記載しました（p.46）

施策②：ジェンダーギャップの解消を始めとした社会全体の意識・構造の改革

みなさんの意見

ジェンダーギャップの解消教育の推進

- 幼少期の教育が大事である（高校生）
- その後の人生の考え方をつくる幼少期での教育が必要（高校生）
- これまでの固定概念を教えない（大学生）
- 子育ての時に決めつけた考えを植え付けない（大学生）
- 偏見をなくす必要がある（高校生）
- 差別がなくなってほしい（小学生）

ライフデザイン教育の実施

- 社会の大事なことが学校で学べない（中学生）
- 職場体験や社会見学の時間を小・中学の間に増やす（大学生）
- 子育てを楽しむ方法を学べたり、知らないことを教えてもらうイベントやセミナーを実施してほしい（大学生）
- 小中高で職場体験を増やし、小さい頃から選択肢を増やす（大学生）
- 職場体験など仕事について知れる機会をもっと設けては（高校生）

社会の意識改革

- 気軽に頼れる環境をつくる。仕事場だけに限らず、町全体（窓口やサービス）で（高校生）

未来戦略に反映した内容

- 「ジェンダーギャップの解消教育の推進」について記載しました（p.48）
- 「県、市町村、企業等の働く場におけるジェンダー平等の推進」や「県民のジェンダー平等の推進」について記載しました（p.48-49）

- 「こども・若者が自らのライフデザインを描けるよう、意識啓発や就労、結婚、妊娠、出産、子育て等のライフステージに関して必要となる情報を年齢や発達の段階に応じてわかりやすく提供すること」を記載しました（p.49）
- 「全ての中学生・高校生が性別を問わず、様々な分野への興味・関心を高め、より幅広い多様な進路を選択することができる取組を推進すること」を記載しました（p.50）

- 「社会全体の意識改革を推進すること」を記載しました（p.50）

施策③：若い世代、ひとり親世帯への就労支援・所得の向上

みなさんの意見

子育て世代への支援

- 子育て世代の人の収入が上がれば、子育てをする人が増えると思う（高校生）
- 子育てをしている人の収入が少ないのは、育児休暇で収入が少なくなってしまうからなのかなと思った（高校生）
- 仕事と子育てを掛け持ちするのは難しい上に、収入が少なくなってしまうのはやっぱり問題だなと思った（高校生）

所得の向上支援

- 資格取得のための支援がほしい（大学生）
- 収入・所得・時給をあげてほしい（大学生）
- バイト代をあげてほしい（高校生）

養育費の確保

- 収入を上げるのではなく養育費を援助してもらう形の方がいいと思う（大学生）
- 国からの援助金などをできるだけ増やし、それを養育費にあてる（大学生）

起業家等の育成

- 自分でお店を出せるようにしてほしい（小学生）

未来戦略に反映した内容

- 施策③では、主にひとり親を対象とした「就業・仕事づくり支援」について記載しました。具体的には、「正規雇用による就業の促進」や「仕事と子育てを両立できる働き方」について記載しました（p.51）

- 「資格取得支援、県内就労促進、再就職支援、雇用の場の創出などを通じて、若い世代の所得の向上に努めること」について記載しました（p.52-53）

- 養育費を直接援助することは困難ではありますが、「養育費確保に向けた支援」について記載しました（p.52）

- 「起業家教育を推進すること」を記載しました（p.52）

施策④：男女ともに仕事と家庭・子育てを両立できる職場環境の整備

みなさんの意見

共働き・共育て・共家事の推進

- 男性も育児休暇が取りやすくなればよい（大学生）
- 職場によって、育休が取りづらい（高校生）
- 人手不足などが原因で、育休を取りたくても取れない。気をつかってしまう（高校生）
- 男性の育児休暇制度が整ってきたとはいえ、まだ子育ては女性が中心になってしまっていると思う（高校生）
- リモートワークができるようにする（中学生）
- 在宅ワークを増やすことによって家事などの時間を増やすことができる（大学生）
- 仕事だからといって外に絶対行かないといけないことはないの、家でのリモートなどを増やす（大学生）
- 若い人相手だけじゃなくて管理職の人へのアプローチはできないのか（大学生）

働きやすい環境の整備

- 社内に保育所を作り、子育てを会社でもできるようにする（大学生）
- 人手が足りないから仕事を休めない（高校生）
- お父さんの会社では人が少なくて忙しい。帰りが遅い（小学生）
- 働き方改革（小学生）

未来戦略に反映した内容

- 「性別に関わらず、希望に応じた育児休業の取得が当たり前になる社会の実現」を目指して、環境整備を行うことを記載しました（p.54）
- 具体的には、「職場の文化・雰囲気を変革するために、組織のトップや管理職の意識を変え、仕事と子育てを両立できる環境づくりを進めること」を記載しました（p.54）
- 県庁において、「『育児休業、部分休業、フレックスタイム、テレワークなど多様な働き方のメニューを活用し、子育てに関与する率100%の実現』を目指すこと」を記載しました（p.54）

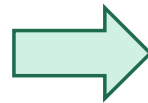
- 「『なら女性活躍推進倶楽部』や『社員・シャイン職場づくり推進企業』といった取組を通じて、男女ともに働きやすい環境を整備すること」を記載しました（p.55）

施策⑤：個人の希望に応じた選択ができるよう、結婚、妊娠、出産、子育ての切れ目のない支援の充実

みなさんの意見

子育て支援体制の強化

- 出産後の金の支援、出産費用の負担（大学生）
- 経験した人たちの相談窓口みたいなものを作る（大学生）
- お金の余裕は心の余裕にダイレクトにつながる。資金援助が必要では（高校生）
- 子育てはお金とか産後うつとかで色々しんどそうだけどそういうのが無くなったり不安が少しでも取り除けたらいいと思う（高校生）
- 子どもを産んだり、育てたりするときのお金が不安（高校生）
- 結婚や子育てではお金がかかるため支援をより手厚くしてほしいと思う（高校生）
- 安心して結婚・出産をできる制度をつくっていく必要があると思う（高校生）
- 子育てしたいけどお金がかかるからためらう（高校生）
- こども一人を育てるのに3000万円くらいかかると聞いたので大変そう（高校生）
- そもそも結婚・子育てに良いイメージがない。金銭だけでなく、行動での支援（ベビーシッター等）があれば結婚・子育ても良いものだなあと思う（中学生）
- こどもを育てるのにお金がかかっていると思う（小学生）
- 子育てなどに困っていたら手伝ってくれる人がほしい（小学生）



未来戦略に反映した内容

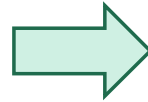
- 「地域の身近な場所で、乳幼児の親子が交流し、子育ての相談が気軽に行える『地域子育て支援拠点事業』や、関係機関と連携調整し、子育て支援事業の情報提供や相談を行う『利用者支援事業』の拡充を目指すこと」を記載しました（p.56）
- 「市町村が産前産後から子育て期を通じた切れ目のない継続的な支援を提供するにあたり、その市町村を奈良県が支援すること」を記載しました（p.56）
- 出産・子育てについて、「伴走型相談支援と経済的支援を一体となって行うこと」を記載しました（p.56）
- 「地域の身近な子育て相談機関である児童家庭支援センターを支援すること」を記載しました（p.56）
- 「子育てのサポートを受けたい人が、地域の人の援助を受けられる『子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）』、こどもの一時預かり、ベビーシッターの活用について、市町村において充実するよう支援すること」を記載しました（p.57）
- 「なら子育て応援団」や「子育て応援『つながる箱』プレゼント事業」について記載しました（p.57）

施策⑤：個人の希望に応じた選択ができるよう、結婚、妊娠、出産、子育ての切れ目のない支援の充実

みなさんの意見

子育ての魅力発信・情報提供

- 妊娠・出産・結婚について、しっかりと教育する（大学生）
- 大学生まで、子育て制度が伝わっていない。違う伝え方がないか（大学生）
- 子育ての魅力発信が必要（高校生）
- 結婚した時のメリット・デメリットをはっきりさせより暮らしやすいような制度をつくっていく必要があると思う（高校生）
- 子育てに関するネガティブな先入観をなくしていくのが大事（高校生）
- 県や地域の子育て支援情報をもっと教えてほしい（高校生）

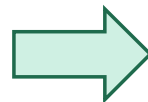


未来戦略に反映した内容

- こども・若者や子育て当事者に必要な情報や支援が届くよう、「こども・子育て分野におけるDXを推進すること」を記載しました（p.56）
- 「子育て当事者に届く情報発信」や「子育て当事者に必要とする情報や魅力が伝わるよう、奈良県の子育て環境の良さをPR」することについて記載しました（p.57）

結婚を希望する方等への支援

- 結婚したい（高校生）
- 婚活するにも人口が少ないので出会える人の母数自体が少ない（高校生）



- 「結婚は個人の自由な意思決定に基づくものであること」に留意しつつ、「結婚を希望する方が、その希望を叶えられるよう支援すること」について記載しました（p.57-58）

施策⑥：困難な状況に置かれている子ども、子育て世帯に対する相談体制、支援等の充実

みなさんの意見

児童虐待発生時の迅速・的確な対応

- 児童虐待を発見しやすい仕組みを作してほしい（大学生）
- こどもの時にされたことを自分のこどもにしてしまうが、それはよくない（高校生）
- 公共の場所などでお母さんやお父さんが、気軽に「助けて」と言えるような町づくり（中学生）
- 児童相談所に相談しやすい周囲の環境づくりを！（中学生）
- 児童相談所はTELしにくい（小学生）
- 今虐待を受けている子供をキチンと保護してほしい（web募集）
- 奈良県内の各児童相談所における格差をなくす（中学生）

ヤングケアラーへの支援

- 学校などでそういったことを質問する時間をもうけて学校などでも助けたり相談できるようにするのがよいと思う（高校生）
- ヤングケアラーの存在を知らない人が多い（高校生）
- ヤングケアラーから抜け出したい人がいたとしても、それが可能な未来がみえない（高校生）
- ヤングケアラーの人自身がそうだと気づくことができない（高校生）
- 身近にヤングケアラーの子がいたかもしれないし、今いるかもしれないと思った（高校生）

未来戦略に反映した内容

- 「県こども家庭相談センター（児童相談所）の体制及び専門性強化」について記載しました（p.61）
- 「親が虐待を繰り返さないための支援」について記載しました（p.62）
- 「奈良県、市町村、警察などの関係機関との連携強化」について記載しました（p.62-63）
- 「家庭・地域における養育に対する支援の充実」について記載しました（p.64）

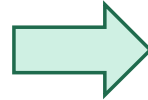
- 「①早期発見・把握、②相談支援体制の充実、③社会的認知度の向上の3つの方針に基づき、ヤングケアラーを支援すること」を記載しました（p.65）
- ヤングケアラー支援にあたって、「福祉、介護、医療、教育等の関係者が情報共有・連携して、早期発見・把握すること」を記載しました（p.65）

施策⑦：こどものすこやかな成長と子育て世帯を支える教育、保育等の体制整備

みなさんの意見

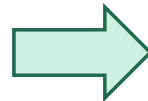
保育体制の整備

- 保育士の人数が少なく給料も低いと言われているので給料を上げる（大学生）
- 男性保育士、保育士資格を持つ人の雇用を推奨してほしい（大学生）
- 保育士の人手が足りなさそう（高校生）



学校教育の質の向上

- 学校のトイレきれいにしてほしい（高校生）
- 校則はっきりしてほしい！なぜダメなのか、禁止にされているのか説明してほしい（高校生）
- 小中学生の時に何か資格を取れる授業をしてほしい（大学生）
- 先生をサポートする人（宿題の丸つけをする人とか）（小学生）
- 運動する授業が増えてほしい（小学生）
- 先生は大変そう（小学生）
- 担任の先生だけじゃなく専門の先生がいれば聞きやすい（小学生）
- いろんな公園がほしい（小学生）
- 奈良県に、もっと家族と遊べる場所がほしい（中学生）



未来戦略に反映した内容

- 「保育士の給与改善をはかるなど、保育人材の確保に取り組むこと」について記載しました（p.67）

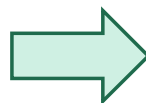
- 「県立高校のトイレの洋式化・乾式化等工事の実施」について記載しました（p.69）
- 「教員の働き方改革」や「学校及び教員が担う業務の明確化・適正化」について記載しました（p.69）
- 「こどもが主体的に取り組む授業の実施」など、自主的・自発的な学習活動の推進について記載しました（p.70）
- 「校則の見直し」について記載しました（p.71）
- こどもの体力向上など、「運動・スポーツの推進」について記載しました（p.72）
- 「こどもが遊び・運動し、学ぶ場の整備・充実」について記載しました（p.73）

施策⑧：妊娠、出産、子ども、子育てを支える保健医療提供体制の充実

みなさんの意見

医療の充実

- 子どもが突然熱を出した時に行ける夜間診療の病院があるとか情報提供してほしい（大学生）
- 夜間に対応してくれる病院がほしい（大学生）
- ラインとか電話とかいつでもだれかに相談できるようにする（高校生）
- 病院が遠い（小学生）
- 行きやすい専門医がほしい（小学生）
- 休日だけ開いている病院があれば良い（小学生）

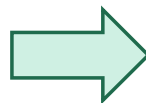


未来戦略に反映した内容

- 「子ども救急電話相談（#8000）の取組」や「休日夜間応急診療所の支援」など、小児救急医療提供体制の整備に引き続き取り組むことについて記載しました（p.77）
- 「小児科医・産婦人科医の養成・確保を行うこと」について記載しました（p.77）

医療費等の助成

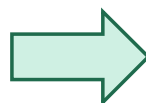
- 子育て世代の医療費負担を減らす（大学生）
- 子ども一人あたり3000万円と聞くが補助金があっても自己負担額が多いので少子化や、出産をためらう人が多いと思う（高校生）
- 治療費が無料になればよい（小学生）



- 「子どもがいる家庭やひとり親家庭への医療費の助成について、令和5年度に対象拡大した高校生世代にまで、低額（定額）の窓口負担のみで済む現物給付を拡大し、子育て世帯の一層の経済的負担軽減を図ること」を記載しました（p.78）

不妊に悩む方への支援

- 子どもができない不妊体質の人もいるので、そういう人でも子どもができるようになるとよい（大学生）



- 「不妊治療に係る医療費支援を行う」など、不妊に悩む方への支援について記載しました（p.78）

施策⑨：こども、子育てにやさしいインクルーシブなまちづくり

みなさんの意見

公園の整備

- 公園での危険な遊具を点検して危ないものは撤去する（高校生）
- 公園のルールが厳しくてあまり遊びに行かなくなったから、もっとやさしくして子どもが遊びやすいようにしてほしい（高校生）
- 公園に公衆トイレなどを増やす（高校生）
- 障害者向けの公園があるといいと思った（高校生）
- 使われていない公園や古くて危ないものは壊して新しく別のものに作り変える（中学生）
- 公園が少ない、遊具が少ない（小学生）
- 公園のトイレが汚い、行きたくない（小学生）

安心して外出できる環境整備

- 多目的トイレや子どもが使いやすいトイレを設置する（高校生）
- 車いすの人のためにスロープがあればいい（小学生）
- 目が見えない人のために点字ブロックがたくさんあればいい（小学生）

安全の確保

- 学校の通学路に光が少なく怖い（高校生）
- 車の事故が起きたので対策をしてほしい（小学生）

未来戦略に反映した内容

- 「こども・子育て世代をはじめとした全ての世代にやさしい公園機能の整備」について記載しました。具体的には、バリアフリー化、トイレの洋式化、授乳施設の設置など、こども・子育て世帯にやさしい公園施設・設備の整備の推進について記載しました（p.80）
- 奈良県営施設である「まほろば健康パークの機能強化」について記載しました（p.80）

- 「親子が安心して外出できる環境を整備すること」について記載しました（p.80）
- 「公共交通機関のバリアフリー化促進」について記載しました（p.80）

- 「通学路の安全確保」や「防犯パトロール活動の推進」について記載しました。（p.80-81）